

第2回大分大学教員評価結果（平成22年度実施）について

国立大学法人大分大学では、平成22年度に、大分大学教員を対象とした『大学教員評価』を実施しました。評価の概要は、次のとおりです。

【大学教員評価が目的としていること】

- (1) 大学教員個人の教育研究活動等の質の向上を図ります。
- (2) 大分大学の諸機能を強化する取組への積極的関与を促すことにより、本学における教育研究活動等の総合的機能を強化します。
- (3) 大分大学教員の教育研究活動等の状況について、説明責任を含む社会的責任を果たします。

【対象期間】

平成19年度から平成21年度の3年間について、評価しました。

【対象者】

大分大学教員（教授，准教授，専任の講師，助教，助手）で、平成22年4月1日に在籍する502名を対象に実施しました。ただし、1年未満在籍者は除きます。

【領域】

「教育活動」、「研究活動」、「社会貢献活動」、「管理運営活動」、「診療活動」の5領域としています。ただし、診療を行わない部局については、「診療活動」を除く4領域です。

【評価結果】

各学部・センター等の教員については、各教員の能力や特性に応じた活動を行っており、総合評価結果（図2）のとおり、「特に優れている」教員が全体の36.8%、「優れている」教員が全体の47.4%、「水準に達している」教員が全体の11%となっています。95.2%の教員が水準以上ということになります。

なお、「問題があり改善を要する」に該当する教員は、全員、大学教員評価を実施していない教員ですので、その事情を精査し、必要な場合は、学長から部局長を通じて活動改善のための指示が出されることになっています。

今後、今回の評価結果について検証を十分に行い、次回の評価へ向けて改善を行うこととしています。

図 1

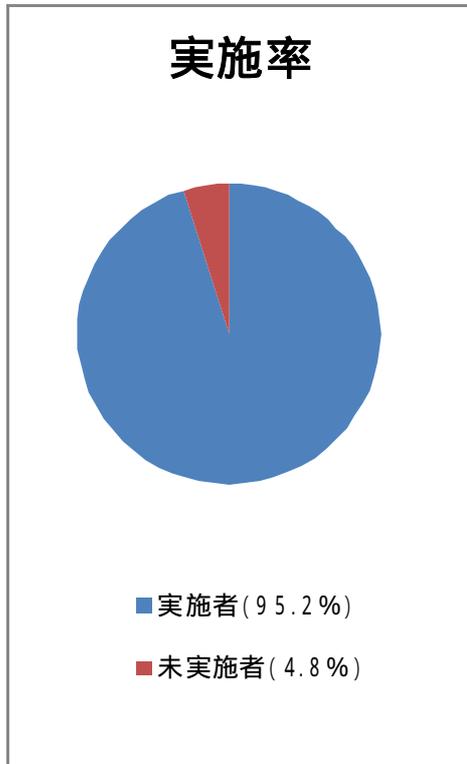


図 2

